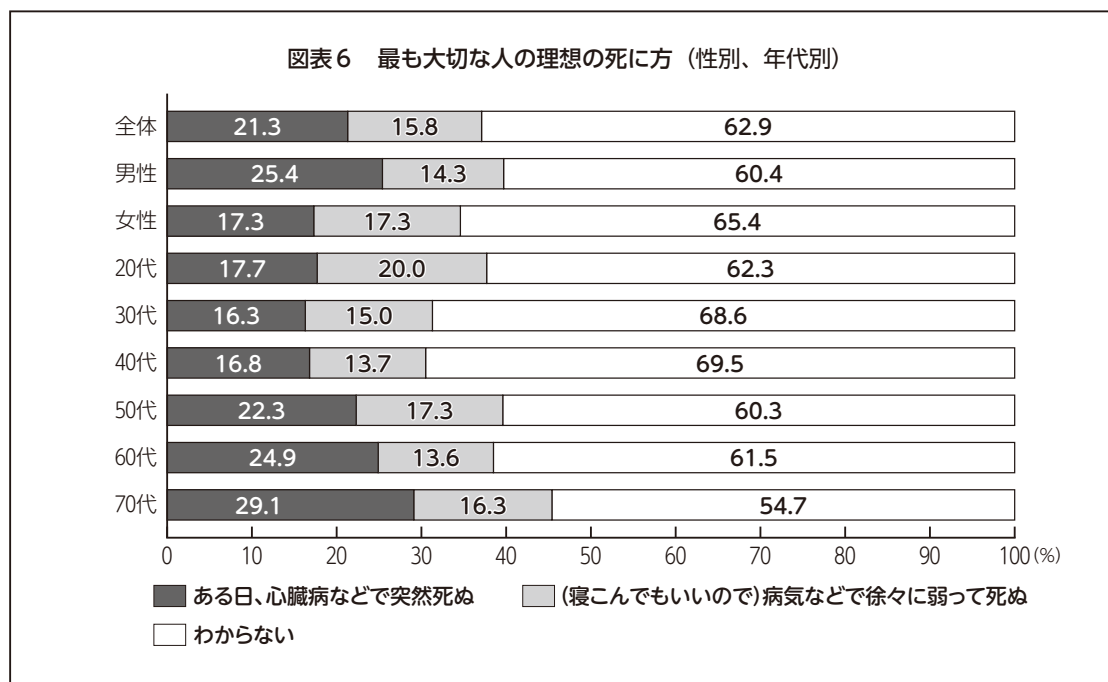


## 4

## 理想の死に方 “ぽっくり死”か“ゆっくり死”か

## ②大切な人の場合

## 大切な人に、ぽっくり死んで欲しい人が2割



○最も大切な人が死に方を決められるとしたら、全体では「わからない」と回答した人が62.9%を占め、「ある日、心臓病などで突然死ぬ」(21.3%)を大きく上回った。

○男女ともに、大切な人の死を想像したこともないためか、わからないという回答が多かったものの、男性ではぽっくり死を希望しているのに対し、女性では、ぽっくり死とゆっくり死が二分される結果となった。

○年代別では、どの年代でも「わからない」という回答が過半数を占めるものの、50代以上では「分からない」と回答した人が少なくなる傾向にある。また20代では、ゆっくり死がぽっくり死の割合を上回っており、30代、40代では、ぽっくり死とゆっくり死がほぼ二分されるのに対し、50代以上では、ぽっくり死の割合が増え、ゆっくり死を大きく上回った。

○大切な人の理想の死に方がぽっくり死か、ゆっくり死かでは、どう理由が異なるのかをみたところ、ぽっくり死では、「苦しんでほしくないから」(85.0%)が最も多く、次に多い「痛みを感じてほしくないから」(43.2%)を大きく上回った。

一方、ゆっくり死では、「少しでも長生きしてほしいから」(57.6%)が過半数を占め、「死の心づもりをさせてあげたいから」(39.2%)、「自然のままに最期を迎えて欲しいから」(36.7%)が続いた。